

今月のトピックス

インフルエンザは第 44 週をピークに、第 50 週まで 6 週続けて減少しています。

病原体検出状況では、AH1pdm のみ検出され、今シーズンにおいては、季節性インフルエンザは検出されていません。(12 月 17 日現在)

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘がやや増えています。

感染性胃腸炎は流行が見られていませんが、第 51 週に入って、市内でもノロウイルスによる集団感染の報告があります。

RS ウイルス感染症は比較的低値ですが、神奈川県全域、川崎市、東京都と近隣自治体では増加しています。

平成 21 年 11 月 23 日から平成 21 年 12 月 13 日まで(平成 21 年第 48 週から第 50 週まで。ただし、性感染症については平成 21 年 11 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成 21 年 週 - 月日対照表	
第 48 週	11 月 23 ~ 29 日
第 49 週	11 月 30 ~ 12 月 6 日
第 50 週	12 月 7 ~ 13 日

全数把握の対象

- 腸管出血性大腸菌感染症:**12 月は 16 日現在で 3 例の報告がありました。1 月からの報告数は 84 例であり、昨年 1 年間の報告数 64 例を上回っています。
- アメーバ赤痢:**12 月は 4 例の報告がありました。そのうち一例は海外での感染です。1 月からの報告数は 33 例であり、昨年 1 年間の報告数 47 例を下回りました。アメーバ赤痢による感染は、性感染のほかに、飲食物による経口感染がありますので、海外旅行の際には注意が必要です。
アメーバ赤痢についてはこちらをご参考下さい。
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/entamoeba1.html>
- 後天性免疫不全症候群:**12 月は 1 例の報告がありましたが、前月以前の追加報告が 4 例あり、計 5 例の新規報告が見られました。5 例のうち 4 例は、男性同性間性的接触によるものでした。1 月からの報告数は 31 例で、昨年 1 年間の報告は 42 例でした。日本は先進国の中でも感染の増加が見られています。特に、男性の同性間性的接触の増加が顕著です。感染予防と、早期発見、パートナーへ感染させないことが大切です。
後天性免疫不全症候群についてはこちらをご参考下さい。
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/30/355/tpc355-j.html>
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/hiv.html>
- 急性脳炎:**12 月には報告がありませんでしたが、前月以前の追加報告が 3 例ありました。11 歳、18 歳、70 歳でした。何れも新型インフルエンザによるものです。1 月からの報告数は 12 例で、1 例を除いて新型インフルエンザによるものであり、全例新型インフルエンザの流行している 9 月以降に見られています。昨年 1 年間の報告は 2 例でした。インフルエンザに伴う脳炎も、全数届出が必要です。インフルエンザによる急性脳炎についてはこちらをご参考下さい。

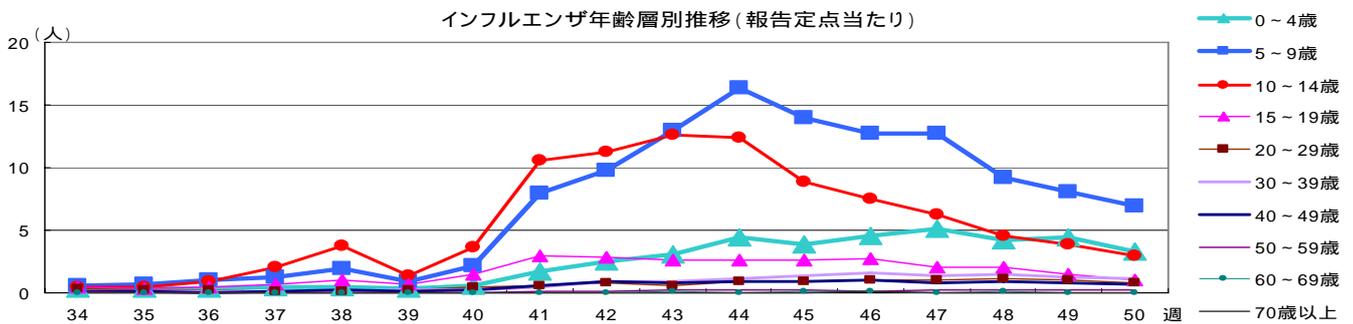
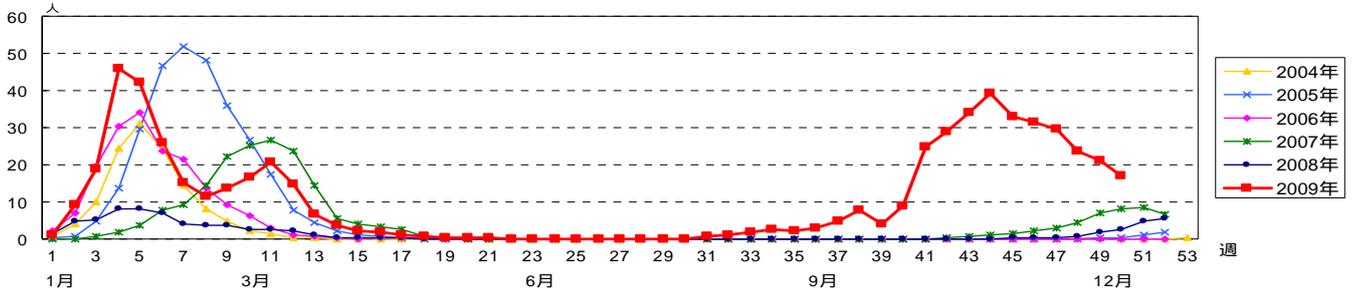
<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/idwr09week45.html>

届出基準につきましてはこちらをご参考下さい。

<http://kanpoken.pref.yamaguchi.lg.jp/jyoho/page7/5rui-zk03.pdf>

定点把握の対象

- 1 **インフルエンザ**: 市内流行状況については、第32週(8月3日からの週)に流行の目安となる定点あたりの報告数1を超え、第44週には39.18と今シーズン最大となりましたが、第50週17.01と6週続けて漸減しています。年齢層別推移でも、何れの年齢層でも低下が見られます。また、定点医療機関からご協力頂いている迅速診断キットの第50週の結果は、A型1894件、B型5件、AB陽性が1件でした。病原体検出状況では、AH1pdmのみ検出され、今シーズンにおいては、季節性インフルエンザは検出されていません。



学校等施設閉鎖の報告数は、ピーク時の第44週では262施設で患者4969人でしたが、第45週では202施設3876人、第50週では72施設820人でした。全国では定点当たりの報告数は27.39、神奈川県横浜と川崎を除いた県域(以下県域)は24.13、川崎市は15.61、東京都は13.75でした。

- 2 **RSウイルス感染症**: 例年冬季に流行が見られますが、第50週の定点当たりの報告数は0.05です。全国では0.78、県域では0.57、川崎市0.58、東京都0.31と何れも横浜より高めです。今後の流行に注意が必要です。
- 3 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 例年、春季を中心とした流行の後に夏季には大きく低下し、また冬季に増加します。今シーズンも、第34週に最低値となった後、細かな増減はあるものの増加傾向が続き、第50週には定点あたり1.40でした。行政区別では港北区(6.14)が高く、次いで泉区(3.25)、瀬谷区(2.67)となっています。全国では1.06、県域0.90、川崎市1.36、東京都1.25でした。
- 4 **感染性胃腸炎**: 例年冬季に流行が見られます。第50週の定点あたり報告数は5.63ですが、第51週に入り、市内でも保育園等集団施設の集団感染の報告が続いています。全国4.79、県域4.22、川崎市8.88、東京都6.23です。病原体がノロウイルスによる場合は、アルコールによる消毒が効果はありません。手洗いに加え、吐物、排泄物の処理等施設管理に注意が必要です。
- 5 **水痘**: 例年、年末にかけて発生が増加します。第50週の定点あたり報告数は1.07でした。全国1.33、県域1.32、川崎市1.70、東京都1.16でした。
- 6 **性感染症**: 性感染症は、診療科でみると産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。
11月は、10月に比べて全体としては大きな変化はありません。性器クラミジア感染症は、男性12例、女性21例でした。性器ヘルペスウイルスは男性6例女性11例、尖圭コンジローマは男性8例女性3例、淋菌感染症は男性10例女性1例でした。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。
横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>